
男女共同参画・若手支援委員会企画・グループディスカッション
『ポストドク問題』って言わないで！－任期付き雇用問題の解決を目指して－
The Symposium for the Promotion of Gender Equality and Young Researchers
Don't call it a "Post-Doc Problem"!

－Group discussion on the issue of a fixed-term employment－

オーガナイザー：日本生物物理学会 男女共同参画・若手支援委員会

Organizers: Promotion of Gender Equality and Young Researchers Committee

日時：9月14日（月）11:30～12:20（ランチョンセミナーの時間帯）

会場：T会場（南福利食堂フレポ奥）

昼食：お弁当とお茶を無料で提供いたします。ただし、数に限りがあります。

形式：グループディスカッション（Japanese language will be used in the discussion.）

概要：本年1月、生物科学学会連合（生科連）のポストドク問題検討委員会は「生科連からの〈重要なお願ひ〉」と題した文書を文部科学省に提出しました。この文書では、1万6千人（2012年）を越えるとされる博士研究員の現状を分析し、博士研究員のキャリアパス創出や支援を目指したさまざまな提案がなされています。本グループディスカッションは、この問題に関心を持つ会員同士の議論を通して、学会として取り組むべき課題を探ると共に、立場の異なる会員間のネットワークを作る場として企画しました。

一般に「ポストドク問題」と呼ばれますが、ポストドクだけが問題なのではありません。むしろ、任期付き雇用が多く存在する一方で、常勤の研究職数が全く増えていないことこそが問題です（生科連文書でも、5年以下の任期で再任がない職をポストドクと定義しています）。これにより、研究者を目指す若者が減少する可能性も指摘されています。昨今では、ポストドクは「特任」や「テニュアトラック」などと呼称を変えつつありますが、将来設計が難しい職種であることには変わりません。さらには、信頼性の高いデータを出せるテクニシャンも、高度な技術が認められているにも関わらず、任期付きです。また、改正労働契約法への対応としての雇い止めの可能性も大変大きな問題と言えるでしょう。

本企画は、任期付き職全体にフォーカスし、問題点を共有すると共に、研究の活性化や新たなキャリアパス創成に向けた経験等を話し合う場にしたいと思います。現在まさにポストドクである方々だけではなく、この問題に関心をお持ちの多様なバックグラウンドの皆様の参加をお待ちしております。